



## Bonne Année! 一般社団法人福島日仏協会 理事長 瀬谷俊雄 平成最後の年が良いスタートとなりますように

### 福島日仏協会・福島萩友会・福島シャンソンの会合同クリスマス会

日仏協会(理事長 瀬谷俊雄)萩友会(会長 河田亨)シャンソンの会(会長 野津寛子)の合同クリスマス会は、12月6日ザ・セレクトン福島で開催された。会員53名が出席された。

瀬谷理事長が挨拶されたあと、ミニコンサートでは福島シャンソンの会の中野祥子さん、野津寛子さん、大橋妙子さん、神尾ミエさんが日頃鍛錬されている豊かな美声を次々と披露された。ピアノ伴奏は村木洋子さん(会員 山梨県立大教授)で最後にソロ演奏は見事な鍵盤操作で皆を堪能させた。

引き続き懇親会に入り、河田萩友会会長の挨拶、高橋副理事長(福島民報社長)の発声で乾杯、新年会らしい料理で楽しい時間を過ごした。中締めは望木理事が希望ある来年を願い一本締めを先導され皆で唱和し、なごやかに終了した。



ーミニコンサートプログラムー	
ホワイト・クリスマス	中野 祥子
枯 葉	野津 寛子
ラ・メール	野津 寛子
雪が降る	中野 祥子
パリ祭	大橋 妙子
ローズ	大橋 妙子
知りたくないの	神尾 ミエ
もう一度	神尾 ミエ
ピアノソロ	村木 洋子

### 家にマージャンに来た大スター・ 裕次郎と浅丘ルリ子

前回の大阪万博の頃のお話です。在ケニア日本国大使館に駐在の主人に同行、娘と三人私達がナイロビ市に暮らしたことはお話しました。

当時、日本経済は戦後復興景気を驀進中で、国内で増産中の国産自動車の輸出を一つの夢として必死の活動中の主人でしたが、日産車が日本国内グランプリで好成績を挙げた勢いに乗り、ナイロビ市スタートのサファリ・ラリーに挑戦することになり「夢が叶う」と喜び興奮しておりました。

そこに石原プロがサファリ・ラリーの映画「栄光への 5000 キロ」製作の為、ナイロビ入りしたのです。灼熱のサファリ原野と砂漠を国産車(ニッサンのブルーバード)で爆走するレーサーが主演・石原裕次郎、相手役は浅丘ルリ子、三船敏郎、仲代達矢、伊丹十三が出演、脇を固めるという豪華版でした。

撮影には現地役所の諸々の認可が必要で、石原氏一行は連日、大使館詰め、対応した主人とすっかり意気投合「土曜日の夜、石原裕次郎と浅丘ルリ子を夕食とマージャンに招待した」と宣言され、本当にビックリ!!「太陽族」とか裕次郎さんの噂は、以前から湘南の友人から聞いており怖い人という先入観はありましたが、私も 25 才位でしたので、主人が招待したのであれば仕方無いと素直に覚悟を決めました。

土曜日夜、裕次郎氏、浅丘さん、銭谷プロデューサーの三人が日産の支社長の案内で来訪、朝からアフリカ人のボーイ・ムカシアと二人で頑張って作った日本食を皆様「美味しい美味しい」と完食され感激でした。主人は

と完食され感激でした。主人は相変わらず「石原さんは、日本の自動車輸出の振興の為、この映画を製作されるんだ。国の英雄だよ!この素晴らしい映画が日本の未来を担っているんだ!!」と天下国家に結び付け大演説。

裕次郎さんは、静かに耳を傾け「こんなに御馳走して頂いて申し訳無い。」と繰り返して「実は浅丘が先週からクルー入りし、野郎共の中で淋しそうなので、遊んでやってほしいとお願いしたのです。」と言われました。

9時過ぎますと、ナイロビ中の単身赴任の男性が続々と詰めかけ、早々に麻雀卓が準備され、男性陣は浅丘さんを囲んで大騒ぎ。「裕次郎さん、麻雀は?」と何うと「奥様、僕達は荒い麻雀で素人の方とはしません。浅丘をよろしく」と言われました。「壮大な映画になりますね」と恐る恐る尋ねますと「私は自分の生きた証しとして映画を撮っているのです…子供がいないから。」そして、私にまわりつづ娘の美奈子を見て、「可愛いですね」と言われた眼差しが、少し淋しそうで深く心に残りました。

石原裕次郎さんは本当に静かで誠実で心優しい方でした。ちなみに浅丘ルリ子さんの麻雀は男性陣がキリキリする程強かったそうです。

※この年(1966年)のサファリ・ラリーで日産のブルーバードは、奇蹟の優勝、ニッサンの車が飛ぶ様に売れたそうです。

佐藤豊子(会員)



## 私のフランス語日記

### Suis-je Otaku ?

Je suis allée à Tokyo voir les statues bouddhique de KAIKEI l'autre jour.

Le connaissez-vous ?

C'était un sculpteur de génie au début de la période de Kamakura, on le surnomme le Michel-Ange du Japon.

Je suis folle des statues bouddhiques Japonaises depuis ces dernières années.

Je me sens que vous être perplexes...

Quelques statues sont d'avant-garde de l'art contemporain, il y a aussi des bel-hommes, et des BOSATSU et des KANNON érotiques.

Leur existence, qui a fait l'objet de prières de différentes époques depuis plus de 1000 ans, est extraordinaire.

Si vous en avez l'occasion, essayez de les apprécier.

Je suis éveillé à la beauté du Japon après mes séjours à l'étranger.

Alors je crois que c'est aussi intéressant pour tous ceux qui ont apprécié les beautés diverses à l'étranger.

La vie est courte, l'art est infini !

Miyuki YOSHIDA

### 私ってオタク？

先日東京に快慶の仏像展を見に行ってきました。

ご存知でしょうか？快慶

鎌倉時代初頭の天才仏師、

日本のミケランジェロといったところでしょうか？

ここ数年日本の仏像にハマっています。

皆さんが引いていく音が聞こえますが・・・

現代アートよりもアバンギャルドな仏たち、イケ仏もいっぱいだし

エロい菩薩、観音も勢ぞろい。

1000年を超えて様々な時代の人々の祈りの対象となった彼らの存在は圧巻です。

機会があったらじっくり鑑賞してみてください。

私は海外での生活を機に日本の美に目覚めました。

海外で様々な美を鑑賞してきた皆さんにもその対比は面白いはず。

人生は短し、芸術は長し！

会話教室受講生 吉田美由樹 2018/11/1



## 私のフランス語日記

Le mercredi 9 janvier, neige

Il fait très froid aujourd'hui.

Je lis le journal et ensuite je prends un café comme tous les matins.

C'est un moment très joyeux.

Alors une chanson m'est venu à l'esprit.

C'est "Comme D'habitude" de Claude François.

《 Tout seul je bois mon café ..... comme d'habitude .....

Tout est gris dehors comme d'habitude ..... 》

On connaît la chanson "My Way" de Frank Sinatra.

《 ..... I did it my way 》

Ce dernier chante la vie positive, mais la première chanson est triste.

Je suis surpris de la différence entre les deux textes.

Alors, je vais à la piscine comme d'habitude .....

Toshio SATO

1月9日 水曜日 雪

今日はとても寒い。

毎朝、新聞を読んだ後、

コーヒーを飲む。

とても楽しい時間だ。

そこである曲が頭に浮かんだ。

クロード・フランソワの "Comme D'habitude"。

「たった一人でコーヒーを飲む、いつものように……

外は灰色だ、いつものように……」

フランク・シナトラの "My Way" も知っている。

「すべて心の決めたままで」。

こちらは人生を讃えているのに対して、なんと悲しい歌だ。

この歌詞の違いにただ驚くばかり。

さて、私はプールに行こう、いつものように。

会話教室受講生 佐藤敏雄



次回は青山民子さん、お願いします！

## クミコのお菓子歳時記～*Jadore lesgateaux* (3)

今回は1月に欠かせないフランスの伝統菓子～ガレット・デ・ロワについて、お伝えいたします。

### ＜Galette des Rois ガレット・デ・ロワ＞



直訳すると王のお菓子(ガレットは丸い焼き菓子の総称です)

写真の通り、バターの香り高いサクサクの折パイのなかに、しっとりして豊かな香りのアーモンドクリームがサンドされたパイです。

フランスでは年が明けるとお菓子屋さんだけでなく、パン屋さんの店頭にもこのお菓子がたくさん並びます。

ガレット・デ・ロワは1月6日の公現祭：エピファニーに家族で食べるお菓子とされています。

公現祭とは～すこし宗教の話になりますが、イエスキリストの誕生が12月25日とされ、ベツレヘムを訪れた[東方の三賢人]によってイエスキリストが神の子として見い出された日が、キリスト教の祝日にあたります。\* 諸説あります

このお菓子のお楽しみは、パイの中にひとつだけ隠されている「フェーヴ」と呼ばれる陶器の人形を誰があてるか？です。パイを切り分け、それに当たった人は、その日、王様(王女)として王冠をかぶり、皆から祝福され幸せに一年を過ごせるのだとか。

今では1月6日に限らず1月中はこのお菓子を囲んで、家族や友達と楽しい時を過ごす様になっているようです。

このガレット・デ・ロワは福島ではあまり見かけないものの(笑)、東京などでは人気のお菓子として、フェーヴを集めたりして楽しむ人が増えています。

パイの上の模様も写真のような渦巻き模様、こちらは太陽を表していますが、他に勝利をあらわす月桂樹の模様や、麦がモチーフの矢羽模様などがあります。

パイそのものより、この模様が難しく^^;、今回はフレデリックカッセル銀座三越店で購入いたしました。

来年はぜひ、気の置けない仲間とのガレット・デ・ロワパーティーはいかがでしょう？

(料理教室受講生 本田久美子)

## ドームはサマルカンドの空の色



10月、サマルカンドの空はどこまでも蒼く、その色で染めたかのようなモスクの円屋根の青いタイトル。「青き都」と呼ばれるにふさわしい、ウズベキスタンの美しい都。

平山画伯によって描かれたシルクロードの面影を訪ねてここまで来た。天山山脈を、機内から見下ろしながら。

サマルカンドに降り立った時感じた、砂漠から吹いてくる風に、街中のバザールの賑わいに、はるか遠い遠い昔、この都を過ぎ我が国にもたらされた文物の数々を想い起こし、何故かなつかしさが募る。

この国は旧ソ連から独立して未だ30年に満たない。男性は小さな帽子をかぶり、女性はスカーフで髪をおおい、その装いは日本の「かすり」模様によく似ていて、親しみを覚える。国民の大半がイスラム教徒だという。

この国は旧ソ連から独立して未だ30年に満たない。男性は小さな帽子をかぶり、女性はスカーフで髪をおおい、その装いは日本の「かすり」模様によく似ていて、親しみを覚える。国民の大半がイスラム教徒だという。



サマルカンドから古<sup>いにしへ</sup>のシルクロードを西へ向かう途次は、綿花畑が延々と続く。ちょうど収穫の時期に当り、真白な綿の花を摘む農家の人の姿が畑のそこそこに見られた。綿花畑が尽きると砂漠。砂漠。次の目的地までの460キロを、砂漠路は対向車もなく、後続車も全くない一直線。変化に乏しい風景

に眠気がおそう。と、突然まさかの大雨！キジルクム砂漠を、バスはワイパーを激しく左右させて突っ走る。

ところで、ウズベキスタンに日本人墓地があることをご存知だろうか。戦後、旧ソ連に抑留された日本人が、当時ソ連領だったウズベキスタンにも連行されたという。厳しい環境と強制労働に、帰国叶わぬまま亡くなった800余名の日本人が、ウズベキスタン国内の十数ヶ所に埋葬されているのだという。

首都タシケントの墓地を訪ねた。ウズベキスタンの人々が埋葬されている同じ墓地内の一面にそれはあった。入口から少し奥まったところに、整然と79の墓石が並んでいる。後年建立された鎮魂の石碑の裏面には、埋葬されている方々のお名前と出身地が刻まれている。それを見ると、日本各地から出征してきたことがわかる。「福島」の文字も読めた。周囲には墓石を護るかのように桜木が植えられており、ごみひとつなく掃き浄められていた。長年、ここの墓守をしている地元の人が居るのだという。



タシケントにはもうひとつ、忘れられないものがある。市の中心部にあるオペラ劇場である。壮麗なこのオペラハウスを建設したのが、捕虜となっていた日本人だという。この建物の側壁には銘版がはめこまれており、「1945年から1946年にかけて、極東から強制移送された数百名の日本国民が、このアリシェル・ナヴォイイ名称劇場の建設に参加し、その完成に貢献した」と、日本語でも記されている。1966年にタシケントをおそった大地震にも無傷で残ったという。日本人の仕事の正確さ、まじめさを、今も地元の人たちは語りついでいる。

中脇ゆき子(会員)



## 白い恋人たち

今の若い人たちは「白い恋人」というと、札幌の製菓メーカーの作るお菓子しか思い浮かばないかもしれないが、映画「白い恋人たち」は 1968 年にフランス・グルノーブルで行われた第 10 回冬季オリンピックの記録映画である。原題は「13 Jours en France」（フランスにおける 13 日）という。フランス人のジャン・クロード・キリーがアルペンの滑降・大回転・回転で 3 冠王になった大会であった。

クロード・ルルーシュが映画監督となり、冒頭の聖火リレーの映像に先日亡くなったフランシス・レイが作曲した有名なメイン・テーマ曲が出てくるシーンはとても印象的

であった。この映画の日本語タイトルを“白い恋人たち”と誰がつけたのかわからないが、なかなか創造的な、素敵なネーミングであると思う。その発想には感動してしまう。勿論、お菓子の「白い恋人」はこの映画の後に命名された商標である。この映画では、競技に出る人、それを支える人たち、そして競技を観に来る人など、意表をついた視点でオリンピックの舞台とそれに伴う様々な出来事を捉えている。映画の中で、スキー場に集まる現地の人達は、クルマのルーフにスキーをむき出しのまま載せて移動する。その頃日本ではスキーは必ずスキーケースに入れて移動していたので、とても新鮮に感じられた。

振り返ってみると、この映画「白い恋人たち」は自分自身にとってヨーロッパへの強い憧れを掘り起してくれた映画だったのかもしれない。 土屋敦雄（会員）

## 史跡巡りで訪ねた長楽寺と暗殺された世良修蔵や東北諸藩の苦悩を思う---追想文

福島城内にあった長楽寺は、幕末仙台藩軍事局が置かれた。講堂横梁「中央部に菊の御紋」「左右に桐の花」の彫刻が施され、維新後は福島地区の裁判所として利用された。世良の位牌はお寺で護られている。



彼は長州奇兵隊時代は指揮官も務め江戸の昌平坂学問所にも選抜され学んだ経歴もある。奥州鎮撫総督府の下参謀となった人事だが、公卿上司(戦闘知識経験無し)のもと実務役 2 名は当初薩摩黒田良介、長州品川弥次郎の案となったが、2 名ともに奥州諸藩を鎮撫するか討伐するかは難題だと辞退した為、新政府は代りに薩摩大山格之介、長州世良修蔵を下参謀に任命した。しかも江戸制圧に多数の兵が必要であり、奥州には 550 名余兵力で出発。1868 年 3 月である。「会津藩攻め」は奥州諸藩の援軍で行わせようとした。ここに無理と混乱が生じて後に凄惨を極める戊辰戦争が勃発した。

[無理な事] 奥州南部は世良修蔵、秋田新庄は大山格之介担当、上司は岩沼総督府に在るだけ。世良の識見や交渉力は仙台米沢藩家老と格の違いがあり意思疎通に欠けた。会津藩を討伐する意は仙台米沢両藩に無く、本音は恭順で済ませたかった。

[混乱発生] 奥羽諸藩の討伐躊躇に不満の世良は、新庄駐在中の大山に飛脚密書を託した。密書内容「奥羽皆敵」「仙台米沢ともに軽藩」が福島藩経由で仙台藩に漏れた。苦々しい世良の傍若無人が密書で露見し福島駐在の仙台藩士

が即、暗殺を指示。旅籠で泥酔中の世良は午前 2 時襲撃斬首され遺体は白石城下で始末された。

この世良修蔵暗殺事件を機に、奥羽越列藩同盟が結成され官軍と戦う組織ができた。しかし白河城が攻撃を受け会津兵が敗走すると戦況は圧倒的に官軍に傾き、仙台藩米沢藩は降伏、諸藩も次々と降伏して二本松藩と会津藩が攻撃の標的となり制圧されて戊辰戦争が終結。

世良は京都時代に長州征伐等で会津藩兵(新選組)から受けた死の恐怖が消えず、会津警戒が憎悪となり、鎮撫府下参謀として仙台米沢藩家老からの会津恭順を前提とする案を示された際に、一旦受け入れ取り次いだのが本心ではなかった。結局、会津藩の回答は恭順の拒否となった。(彼は恭順拒否の会津藩回答を確認する前に殺害されてしまった)

若輩の会津藩鎮撫役は、虚勢を張り東北諸藩を承服させたかった。日頃も 200 余名の兵力しかなく彼は常に襲撃される警戒心を持っていたという。これらがストレスとなり、仙台藩士を嘲笑し連日の酒色でうっぷんを晴らしていたのか。世良修蔵は妻千恵との間に 1 女がいたが早世子孫は絶えている。

当初下参謀人事案を辞退した 2 名、黒田良介(改名黒田清隆北海道開発庁長官)品川弥次郎(明治政府大臣、会津攻め後半総督府参謀で戦功)の後半生を思うと世良の不運にも思いを馳せてしまいます。奥羽に赴任して 3 ヶ月 1868 年 6 月 10 日 33 才没。

石堂信也（会員）